

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

- ◆ 実例を取り上げながらの講義がとても分かりやすかった。「健全な育成」、「安心して過ごせる生活の場」と難しく考えてしまうが、遊びを通して関わり、子どもたちの要求に応えられるように準備したり、遊びの輪に入り提案してみたりして環境を整えていきたい。また、言葉掛け一つで子どもの感じ方や捉え方が変わってしまうこともあるので、状況判断をしっかりして対応してきたいと思った。自分自身の言葉の使い方を見直す良い機会になった。
- ◆ 子どもが自ら学童に行きたいと思え、自分の気持ちや意見を表現でき、子どもが安全安心に過ごすことができるように環境を整備するとともに、緊急時に適切な対応ができるようにすることが大切である。学童での様子を日常的に保護者に伝え、家庭と連携しながら育成支援を行うには、子どもたちや保護者、職員同士の信頼関係を築くことが何よりも大事なことだと思いました。言葉使いに気を付けて、信頼してもらえる支援員を目指します。
- ◆ 講義を受けて、自分が働いている児童クラブの課題を見つけることができました。高学年になると納得してクラブに来ている子が少なく、不満や反抗的な態度が出てくることもあります。こちらで主体的な遊びや過ごし方ができるように援助や準備をすることで、子どもたちに変化がでてくるのはと思いました。声掛けの言葉はどうか、基本的な生活習慣の習得のために根気よく声をかけているか、振り返ってみたいと思います。
- ◆ 子どもたちと接することがまず大切だと思い、一緒に勉強したり遊んだりしているが、あまり関われなくて距離が縮まっていない子もいる。子どもが自分の気持ちや意見を表現できるようになるには、関わりを持つことが大切だと思うので、もっといろいろな子どもと接していきたいと思う。「つまんない。ひまだ」と言う子はかなり多くいるので、見通しを持って過ごせるように一緒に工夫してやっていきたいと思う。
- ◆ 児童が安心して過ごせる居場所で、自ら危険を回避できる自己管理能力を育て、発達段階に応じた主体的な生活や遊びができるように育成支援することを学びました。育成支援における日誌の書き方も参考になりました。子どもの様子やどう支援したか分かるように記録を残すことは大事なことだと思います。また、職員同士で情報交換の場を持つことは大切で、情報を共有し、子どもたちのために何でも話し合える環境が望ましいと思いました。